

# 修学旅行新聞をホームページで発信しよう！

ータブレットPCを活用した協働学習ー

岡山県 早島町立早島小学校 教諭 浅野 雄一  
yuuiti\_asano@is.hayashima-e.ed.jp

キーワード：タブレットPC、総合的な学習の時間、協働学習、コラボノート for School

## 1. はじめに

早島町の重要施策により、平成23年度6月に6年生児童(130名)にタブレットPCが導入され、普通教室での学習で、一つの道具として活用できる環境が整った。導入にあたって、児童が情報活用実践力を身に付けることを踏まえ、「活用」・「探究」・「表現」の学習を意欲的かつ効果的に行うことを目標とした。学習中、児童の机の中にはタブレットPCがあり、学習活動や個々の必要感に応じて活用する。休み時間もあまり制限を設けず、学習に関することに活用するのであれば自由に使えることにした。

## 2. 実践内容

### 2.1 実践の狙い

早島小学校の修学旅行は秋に京都・奈良方面に出掛ける。年々新しい取り組みを工夫し、以下の三点が特徴となった。

- ・少人数グループでタクシー研修(平成19年度より)
- ・現地で外国の方にインタビュー(平成21年度より)
- ・リアルタイムでBLOG発信(平成22年度より)

しかし、修学旅行後に総合的な学習の時間で取り組むまとめの学習活動には大きな特徴がなく、内容について毎年頭を悩ませていた。そこで、導入されたタブレットPCの活用が、児童の意欲的な「表現」の好機になると捉え、『修学旅行新聞づくり』の実践がスタートした。それに伴い、本校のホームページに新しいコンテンツ「児童がつくるページ」を追加し、児童の表現を公開できる場を設定した。

### 2.2 新聞づくり

#### (1) 新聞づくりのねらい

- ・「調べて・まとめて・伝える力」を育成すること。
- ・読み手に伝えたいことが新聞の内容・タイトル・画像等で表現できること。
- ・一人では難しい課題をグループの協働学習によって達成し、学び合うよさや喜びを味わうこと。
- ・ルールを守り、責任をもってホームページでの情報発信を行うための、情報モラルを身に付けること。

#### (2) 新聞づくりの流れ

- 1) 行き先調べ・コース決定
- 2) タクシー研修(修学旅行)
- 3) 情報の整理・新聞記事の内容決定
- 4) タブレットPCを活用した新聞作成
- 5) 新聞改善活動
- 6) ホームページで公開・振り返り

新聞づくりを行うソフトウェアは、一つのノートに同時に複数人が書き込み、時間をムダにすることなく効率よく協働学習に取り組める「コラボノート for School」を使用した。ホームページで完成した新聞を公開することは、必然的に児童が目的意識・相手意識をもち始めることに繋がった。またタクシー研修で、

グループごとに行き先が異なることは、皆に自分たちが訪れた場所の情報を伝えたいという仕掛けになり、モチベーションアップに繋がった。外国の方へのインタビューも同様で、児童にとって期待と不安が大きかった分、ぜひ新聞で伝えたい内容になった。自分たちの体験や学習したことを、自信たっぷりに表現し始めた児童の姿に大変驚いた。



写真1 タブレットPCを活用した新聞づくりの様子



資料1 児童が作成した修学旅行新聞

### (3) 新聞改善の活動

グループで何時間もかけて新聞を作成していくと、完成することで満足感を得てしまいがちになる。そこで、完成した新聞を他のグループに読んでもらい、出た意見をもとに改善する活動を取り入れた。新聞はタブレットPC上で読むことができるが、あえてプリントアウトして配布し、じっくり読んでよいところと改善点を見つけた。そして新聞をプロジェクターでマグネットスクリーンに投影し、出た意見をマーカーで書き込みながら、また板書しながら記録を残し、重要なことは話し合い、全体で共有した。取り上げたグループの新聞がより改善されたのはもちろん、他のグループから「自分たちの新聞にも当てはまる」、「表現の仕方が参考になる」という声が上がリ、より伝えたいことを明確にしようとする改善活動にシフトすることができた。その後、どのグループからも要望があり、同じようにクラス全体で各グループの新聞のよいところと改善点を見つけ、話し合いを行った。

### (4) リンク作成

新聞を手書きではなく、タブレットPCを使って「コラボノート forSchool」で作成したメリットは、効率のよい協働学習、画像やロゴ文字などを活用して見やすい工夫ができることなどが挙げられるが、新聞の中にリンクを作成する工夫ができることも大きなメリットであった。訪れた所の公式ホームページや詳しい情報を調べたページをリンクさせ、伝えきれない情報を読み手に伝えることができる。児童が読み手の立場から考える機会になり、新聞をホームページ上で読んでもらえる価値が生まれた。

## 3. 実践の成果と課題

### 3.1 成果

学習後の振り返りでは、協働学習の結果が目に見える形になったことで、達成感を味わえ、学び合うよさを感じたという感想が多く挙がった。その後、総合的な学習の時間に行った卒業課題（自ら課題を見つけて追究し、その結果を発表するという学習）では、「調べて・まとめて・伝える力」の成長が感じられた。自主的に取り組む姿勢、学習活動の進め方、表現力など、修学旅行新聞で培った力の成果を感じることができた。現中学1年生の学力調査で、小学校の生活を問うアンケート「総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ」の項目の数値は91.3ポイントで、県平均を9.3ポイントも上回った。

ホームページで新聞を見て頂いた保護者、地域の方からは、児童のがんばりを称賛する声がたくさん届いた。今年度、早島小学校のホームページはJ-KIDS大賞の県代表、全国ベスト8校に選出された。その際に、『児童がつくるページの修学旅行新聞は非常に完成度が高く、子どもたちが積極的にパソコンに触れている様子がうかがえる。』と評価頂けた。

### 3.2 課題

新聞で自分たちの発見や思いを表現し、タイトルや画像も工夫していくことは、まだまだ伸びしろがあると感じた。想像以上の成果を上げるグループもあったので、次回への期待も膨らんだ。また、修学旅行新聞

を公開しているホームページで、修学旅行の詳しい情報や子どもたちの生き生き学ぶ様子などを合わせて公開することで、更に修学旅行新聞のよさが伝わるのではないかと感じた。

## 4. 今年度の取り組み

上記の課題を踏まえ、前年度の取り組みを更に向上させる工夫を行った。

### (1) 新たな取り組み

- ・朝読書の時間を活用して学校で新聞を購読し、新聞の構成や書き方を普段から学んだ。
- ・地元紙の山陽新聞社の出前授業を行い、記者の方に自分たちが作成した修学旅行新聞の改善点を具体的にアドバイスして頂いた。

### (2) 修学旅行ホームページの工夫

- ・グループで訪れた場所が全て伝わるように「京都めぐり一覧」のページを設けた。
- ・外国の方にインタビューする様子が詳しく伝わるように、動画をアップした。
- ・毎日更新しているブログとリンクさせ、事前・事後学習の様子も合わせて紹介し、内容を充実させた。
- ・作成した修学旅行新聞の内容を伝わりやすくするため、プレビュー画像とタイトルを加えた。



資料2 平成24年度修学旅行新聞公開ページ

## 5. おわりに

タブレットPCの活用に振り回されず、表現して伝えたいような仕掛けをつくるのが大切であることを改めて感じた。この実践は、これまでの修学旅行の特徴が表現して伝えたい仕掛けになり、新聞の内容が充実したと感じる。タブレットPCをムリに使わせようとするのは、決して子どもの充実した学びには結びつかない。学習の流れや意図が自然で、ムリなくICTを活用しながら、児童が自ら求める学習活動になる実践が21世紀にふさわしい学びだと考える。

早島小学校のホームページの「児童がつくるページ」にぜひアクセスして頂き、実際の新聞や児童の活動の様子などを本校のブログと合わせてご覧ください。  
<http://www.town.hayashima.lg.jp/669/primary-school.html>